

■ 清流劇場「メアリー・ステュアート」

ドイツ演劇に取り組み、成果を上げる清流劇場が、シラ
ー原作「メアリー・ステュア
ート」を上演（10月21日、伊
丹市のアイホールで所見、田
中孝弥構成・演出）。16世紀
の女王処刑の史実に基づく荘
重な悲劇。現代に通じる劇と
して感情表現豊かに展開。

スコットランド女王メアリ
ー（竹田朋子）が、イングラ
ンドで幽閉される。イングラ
ンド女王エリザベス（林英世）
よりも正統な王位請求権を持
つとされるメアリーは、エリ
ザベスの権威安泰を願う議會
により、死刑が宣告される。
白い2段の舞台を組み、権
力構造を象徴。政治と宗教の
対立を背景に、個人の葛藤が
生々しく描かれた。



林英世は女王の重圧
と悲壮感を熱演した

現代に通じる荘重な悲劇

メアリーは身体的に囚われ
ているが、エリザベスには精
神的自由がない。出自への劣
等感とメアリーのカリスマ性
への畏怖。家臣と民衆の支持
の上に成り立つ、危うい権力
への不安。家臣達の一言一言
に敏感に反応する女王の重圧
を、林英世は繊細に造形、弱
さと気位を熱演。家臣役の男
優達も、正義感や保身に揺ら
ぐ内面をリアルに表現した。

メアリーの処刑理由は無実
の罪だが、彼女はそれをおつ
て夫の殺害に関わった罪に対
する、神の処罰を受け止め、
贖罪を果たし、精神は解放さ
れて天上に旅立つ。一方エリ
ザベスは義務に囚われ、孤独
を受容。悲壮感溢れるラスト
の表情から、自由への切実な
希求が際立った。

翻弄される2人の女王と、
自らの権謀術数により自滅す
る家臣。人は皆、不自由を抱
えて生きていることを強調し
た。閉塞する現代社会。身分
や国境を越え、息苦しさを相
互理解し、乗り越えられない
ものか。問題提起が伝わる、
緊密な会話劇だった。

（大阪芸大短期大学部准教授